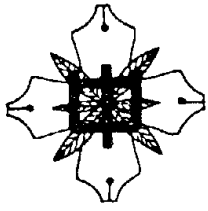


【教育目標】 将来をみつめ「学び考える力」「自他を大切にする心」「たくましく生きる力」を育てよう



十中だより

平成29年 5月18日 発行 第24号

発行者:中野区立第十中学校

「先生」

真偽の程は定かでないが、過去の教員採用試験に「あなたは、童謡『スズメの学校』と『メダカの学校』のどちらの先生を支持しますか?」という設問があったそうだ。今時、「スズメの学校」のように、先生が“ムチを振り振りチイパッパ”することは許されないし、「メダカの学校」のような“誰が生徒か先生か”区別がつかない学校であっても困る。

今回のテーマは「先生」。

先ごろ、文部科学省が「公立小中学校の教員の勤務状況の調査結果」を発表した。それによると、「過労死ライン」とされる月80時間の残業をしている先生は小学校で3割、中学校で6割に達していることが明らかになった。先生の「残業時間」は前回調査よりも増え、過重労働の実態が浮き彫りになった。実は、十中も「勤務状況調査対象校」に抽出され、先生方は出勤時間から退勤時間まで2週間分の勤務状況を事細かく記録し国に提出した。全国の先生の「残業時間」が前回調査よりも増えた要因は十中にあるのかもしれない。

学校の先生は、「教員」及び「教師」と呼ばれる。辞書は「教員」を学校に勤務し教育に従事する人、「教師」を学校で学問を教え生徒を導く人と説明している。半月ほど前、塾経営をしている中学時代の友人と飲んでいた際、「最近、教員は増えても、教師が減ってはいないか?」と聞いてきた。多くの先生が様々な仕事に追われ、生徒と触れ合う時間がなくなっていることを意図しての質問らしい。

「確かに先生は忙しいが、中野区立第十中学校の先生は皆『教師』だよ」と返した。

柚梨太郎氏作の「先生」という歌がある。歌は、

子どものことを好きなだけではだめだけど、
子どものことを好きでなければ先生にはなれない。

で始まり、

思ったことを話すだけではだめだけど、
思いを言葉にできなければ先生にはなれない。

などのように理想の教師の姿を求めていく。そして、最後は、

子どものことを好きなだけではだめだけど、
子どもを愛するあなただから先生と呼びたい。

と結ばれる。いい歌である。

日中は一生懸命『教師』を務め、夕刻以降は「過労死ライン」を超えてもなお十中劇場の最終幕成功のために努力している十中の先生方にこの歌を贈り、「残業手当」に代えたい。

第1学年 山中湖移動教室実施

～1年生が真の十中生に一步近づく～

第1学年は入学間もない4月18～19日に山中湖移動教室を行いました。これは2年前から中野区内中学校の1学年で4月に実施されるようになった校外学習であり、1年生の新しい人間関係づくりも兼ねた宿泊行事です。今年も、第三中学校と2日目朝まで行動を共にしました。

移動教室では1年生が仲間と寝食を共にしながら普段の学校生活ではできない自然体験活動、レクリエーション、校歌合唱コンクール、飯盒すいさんなどを行い、大変有意義で充実した2日間を過ごしました。

移動教室を終えた1年生は真の十中生に一步近づきました。



第3学年 薬物乱用防止教室実施

～十中の皆さんは最高です！～

4月21日（金）、第3学年対象に東京中野ライオンズクラブの皆さん及び中野警察署スクールサポーターをお迎えして「薬物乱用防止教室」が実施され、薬物乱用の恐ろしさを学びました。

3年生のたくさんの質問に対して、一つ一つに丁寧に回答してくださいました。その中で、「覚せい剤のような薬物は無くなるのはいつですか？」の質問に対して、「薬物を買う人がいなければ無くなる。その時代を作るのは君たちだ」という高山氏の言葉が印象的でした。また、「たくさんの学校をまわってきているが、十中の皆さんが最高です」という言葉を大変うれしい思いで聞きました。



最後は、薬物乱用防止標語「ダメ！ゼッタイ！」を全員で大きな声で唱和し、薬物を世の中から追放することを心に誓いました。

離任式挙行される

～立派な十中生に成長します～

4月28日(金)6時限目、十中の教育と生徒の指導にご尽力され3月末に去られた先生方をお迎えし離任式が行われました。

式では約1ヶ月ぶりに十中を訪れた先生方に代表生徒がお礼の言葉を述べ、全校生徒が「地球星歌」を合唱した後、離任された先生方からお言葉をいただきました。そして、最後に十中の校歌を高らかに歌い、離任された先生方をお送りいたしました。

当日、離任式を参観された保護者から、「本当に心温まる素敵な離任式でした」「感動しました」という感想をいただきました。

以下、離任された先生の紹介です。



・谷川 敦子先生（国語・6年）

平成23年4月、国語科担当として着任し、在職6年間学年主任を務める。若い先生方が一人前の教員として自立できるよう温かくも厳しい指導により、十中の若い先生方は立派に成長。生徒の言語能力向上を目的に天声人語の書き写し活動の導入・定着に尽力。和太鼓部顧問として各種地域行事で和太鼓部の演奏機会を確保し地域活動に貢献。プロ野球のソフトバンクホークスのファンで、中村先生と福岡ドームに野球観戦に度々足を運ぶ。3月17日に73名の卒業を見届け、練馬区立三原台中学校へご転出。

・高橋 毅先生（数学・2年）

平成27年4月に数学科担当として着任。東京方式という少人数の習熟度による授業を通して数学の不得意な生徒が少しでも理解できるよう授業を工夫。塔山小や谷戸小への乗り入れ指導も積極的に行い小中連携教育を推進。現1・2年生の中には、小学校時代に高橋先生の授業を受けた人も多数。2月のスキー教室ではグレンデで華麗な滑りを披露。また、宴会の幹事長としては見事な司会ぶりを披露。区内の中野中学校へ転任。

・針生 星児先生（技術・2年）

平成27年4月に技術科担当として着任。昨年度は、1学年主任と1年A組の学級担任を務める。時間割担当として先生方の出張やお休みがあっても、混乱なく授業が進められるよう、細やかな配慮をしながら時間割表を作成。和太鼓部顧問として谷川先生と共に和太鼓部が地域で演奏活動が行えるよう尽力。熊のプーさんや北野たけしのものまねを得意とする。国立市立国立第二中学校へ転任。

学習指導支援員及び体育講師として1年間勤務。学生時代にセパタクローの全日本学生大会で優勝を果たして日本代表として世界選手権に出場。現在も全日本メンバーとして練習を行い、各種大会に出場し、来年のアジア大会での金メダルを目標とする。競技活動が一段落した後は教員になることを目標としている。丁寧で、無駄のない、語りかけるような話し方は、先生としての大きな財産。世田谷区立中学校へ異動。

「連携特使」にまつわる 温かくも素敵な話

十中生は、「学校地域連携特使」が学校と地域の架け橋の役を担っています。連携特使の最も重要な役割は、十中がお世話になっている地域の方々に学校のお便りや行事案内を配布することです。今年も、約20名の生徒を連携特使に委嘱しました。先日、連携特使に関して地域の方から次のようなお手紙をいただきました。ご本人の承諾をいただきましたので、紹介させていただきます。

弓田校長先生

いつも地域にご配慮いただきありがとうございます。

先日帰宅したところ、第十中学校から「十中だより」と「未来の一步」が届けられておりました。その封筒には大変素敵な添書きがついておりました。「学校地域連携特使」さんが私以外の地域の方々にも一通一通丁寧に書いてくださったのだと思います。その心遣いに大変感激いたしました。

特使さんに直接お会いしてお礼を申し上げたいところですが、なかなかそれもないので、機会がありましたら校長先生から生徒さんにお伝えいただければ幸いです。

残り1年間、第十中学校が「十中劇場」の最終幕を素敵に演じられる様、微力ではありますが応援していきたいと思っております。

今後よろしく願いいたします。

〇〇町会 ★★ ◇◇

今回いただいた
お手紙

連携特使さんの
添書き

暖かい春風が吹く季節となりました。

いかがお過ごしでしょうか。

いつも十中へご支援いただきありがとうございます。

今年も地域の皆さんとの架け橋になるよう十中からのおたよりを配布します。

これからもどうぞよろしく願います。

3年□組 ☆☆ ◎◎

<表彰> ～中野区春季卓球大会～

- 女子団体準優勝 樋口小夏、見市 鈴、岡菜々美、江村萌花、増田智美、瀬戸もえ
- 女子ダブルス準優勝 樋口小夏・見市 鈴
- 男子ダブルス第5位 濱中大勢・牧野雅憲